令和４年度　大田区立新宿小学校　自己評価　報告書

令和5年3月1日

○　本校の概要

・児童数２８５名（全１２学級）、教職員（校長・副校長各１、主幹教諭１、指導教諭１、主任教諭５、教諭７、臨時任用教諭１名、養護教諭１）事務１、講師３、主事５ほか
・「子供も　教員も　保護者も　みんなが成長する学校」を目指し、校内独自の漢字検定や東京ベーシックドリル、算数ステップ学習を活用した「漢字チャレンジ週間」「算数ステップアップ週間」等の取組を通して、基礎・基本の定着を図り、学力の向上に努める。
・平成２０年、校庭全面芝生化になり、これを生かした教育活動に取り組む。また、令和元・２年度大田区教育研究推進校の指定を受け、「進んで関わり合いながら運動に取組む子の育成」の研究に取り組んだ成果を生かした体力向上に努める。
・恵まれた環境を生かし、地域の中の学校として、地域・保護者との協働による芝生の維持管理や学校支援地域本部との連携による積極的な地域人材の活用を図る。
・withコロナの教育を求めながら、教育活動の正常化を進める。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン１　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上が回答した。 ２：６０％以上が回答した。 １：６０％未満であった。	4	「学校ふり返りアンケート」にて、「人の話を聞いて、自分の意見を発表したりタブレットに書いたりして伝えることができた」の質問に、肯定的な回答をした児童の割合	４：８０％以上 ３：７０％以上 ２：６０％以上 １：６０％未満	3	児童アンケートでは、低・高学年とも、自分の意見を発表したり、タブレットやノートに考えを書いて伝えたりすることができたと回答した割合が85%になった。ただ、高学年になると、自分の考えを発表をすることができる児童が49.3%と大きく下がってしまう。 このことより、「考えを伝えることができた」と肯定的に回答した児童は高いものの、高学年になるにつれ、発表をすることに抵抗を感じている児童が多いことが分かる。 今後も、授業では、まず考えをノートやタブレットに書かせることで、自分の考えをしっかりともたせるようにする。そして、各教科で意図的に発表する場を作り、その考えを友達と交流することで、分からなかったことが分かるように、また、自分の考えをより深められるようにしていく。さらに、スピーチ活動を積極的に取り入れ、自信をもって発表できる児童の育成を図る。	A	5	・高学年になるにつれ、自己意見が無いのか、あっても発表の意思に欠けるのか、それにより学びの方向が変わるのではないか。この事実は欧米の教育と一番違う点。 ・デジタル化が進んでも、自分の考えを発表することはとても大事なことでしょう。学校の取組は重要なことだと思います。 ・学校公開で授業を見学していますが、子どもたちがどんどん手をあげて発表している雰囲気がとてもいいなと感じています。児童アンケート「自分の考えを発表できますか？」で、低学年と高学年で大きな開きがありますが、高学年ゆえの、「みんなの前で発表できる」と答えることに、少し控えめのところ、恥ずかしいところがあるだけでしょうか？もっと数字が上がるようになればいいなと思います。 ・タブレット等に入力して回答することは、個々の考えを知ることができ、解決にもつながる。　スピーチ活動は、大人になっても自信をもてるので、大事かと思います。 ・全ての目標が細かすぎると思います。いかなる天才を育てようとしているのか？学校の先生に対する社会または周囲の期待が大きすぎると思います。それぞれの子どもたちの発達段階に応じた愛情に満ちた教育が一層大切で、それがあれば何とか子どもたちは成長してくれるのではと思っています。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	４：全教員が行った。 ３：８０％以上の教員が行った。 ２：６０％以上の教員が行った。 １：６０％未満であった。	3					B	2	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ＩＣＴ機器を活用した授業を実施する。	４：設置教室を使用する全正規教員が週１回以上活用した。 ３：８０％以上の正規教員が週１回以上活用した。 ２：６０％以上の正規教員が週１回以上活用した。 １：６０％未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	４：対象となる全学級（全教員）で行った。 ３：８０％以上で行った。 ２：６０％以上で行った。 １：６０％未満であった。	4					C		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	４：全教員で行った。 ３：８０％以上の教員で行った。 ２：６０％以上の教員で行った。 １：６０％未満であった。	3							
		コミュニケーションを図る活動を授業に積極的に取り入れる。	４：全教員で行った。 ３：８０％以上の教員で行った。 ２：６０％以上の教員で行った。 １：６０％未満であった。	4					D		
プラン２　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	４：対象となる全学級（全教員）で行った。 ３：８０％以上で行った。 ２：６０％以上で行った。 １：６０％未満であった。	4	「学校ふり返りアンケート」にて、「授業の内容が分かる」の質問に、分かる・だいたい分かると回答した児童の割合	４：９０％以上 ３：７０％以上 ２：６０％以上 １：６０％未満	4	低・高学年とも、学習した内容について理解していると肯定的に回答した児童の割合が9割以上となった。これは、ICT機器を効果的に使うことで、意欲的に学習できるように授業を工夫したことや、少人数で指導を行い、分かるまで教員や学習補助員が丁寧に指導してきたことによるものと思われる。児童の理解度をしっかりと把握し、補習教室などで指導してきたこと、間違えたところを最後まで直させることも有効であったと考える。 今後も、児童一人一人が分かる・できる授業を展開していく。また、学習の習慣付けを行い、自ら課題に取り組む姿勢を育成する。そして、家庭との連携も深め、家庭学習の定着を図る。	A	5	・教育の素人として地頭という言葉で表現される能力と表面的な学力との違いが分からぬが、個々の勉学が総合力を高めるのか。 ・全員の児童が授業を理解することは理想ですが、取り残される児童がいないよう、取り組まれていて安心しました。 ・ICT機器を使って、授業がとても変化に富んでいて、楽しく感じられます。また、どの子がどんな答えを書いているのか？どの子がまだ書いていないか？が分かって、とても良いと思います。補習教室では、分からない子も分かるまで丁寧に教えているので、とても安心できます。 ・ICT機器を使用しての授業は、個々の理解度を把握し、工夫する等で共有することは学校だけでなく、どの職場でも大事なことと思います。今の子どもたちは、素晴らしい教育環境に恵まれていると思います。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	４:学期に２～３回知らせた。 ３：学期毎に知らせた。 ２：年度間に１回は知らせた。 １：お知らせできなかった。	3					B	2	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	４：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 ３：８０％以上の教員が働きかけた。 ２：６０％以上の教員が働きかけた。 １：６０％以下の教員が働きかけた。	4					C		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上が回答した。 ２：６０％以上が回答した。 １：６０％未満であった。	4							
		児童の学習に対する意欲の高まりを、教員が感じている。	４：全教員が感じた。 ３：８０％以上の教員が感じた。 ２：６０％以上の教員が感じた。 １：６０％未満の教員が感じた。	3					D		
プラン３　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	４：全教員が行った。 ３：８０％以上の教員が行った。 ２：６０％以上の教員が行った。 １：６０％未満であった。	4	「学校ふりかえりアンケート」にて、「自分にはよいところがある」の質問に、「はい」と回答した児童の割合。	４：９０％以上 ３：７０％以上 ２：６０％以上 １：６０％未満	3	児童アンケートでは、83.7%の児童が『自分にはよいところがある』と回答した。 一人一役で係・当番活動などを行わせ、責任をもって活動させることで、やり遂げた時の充実感や自己有用感を感じられるようにしている。また、自分の行動を振り返る時間を取ることで、次へ生かしていくことができるようにさせている。また、必ず賞賛をし、次への意欲付けをしている。 学校生活調査やWEBQU、いじめ調査などの結果を受け、児童と面談をし不安なことや困っていることを聞き取り、解決に向けて話し合いの場を作ったり、スクールカウンセラーに繋いでいる。今後は、担任だけでなく、全教職員で共有し合い、適切な声掛けや指導をしていく。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センター等の関係諸機関とも連携をとり、問題解決に向けて組織的に取り組む。	A	4	・具体的な例をあげ褒めること。褒めるにも技術あり。 ・家庭でも学校でも自分を肯定してくれる声掛けは、励みになり意欲に繋がると思います。 ・学校成果評価は４でいいと思います。校長先生自ら、家庭環境が心配な子に、積極的に声掛けをしている、長期休み前に心配で声を掛けたと聞きました。ちゃんと見てくれている人がいる、きちんと考えていてくれる人がいる、このことは、子どもたちにとって、とても大きな安心感・安堵感に繋がると思います。自己肯定感にも繋がります。豊かな心を育むこととして、高く評価していいと思います。 ・２０数年の保護司活動の中で考えると、１３．６％の児童の声掛けや指導はとても大切なことである。多くの機関と連携を密にして、取り組んで欲しいです。 ・朝、忙しい時間だが、コロナ前のような「あいさつ運動」はいいと思う。上級生が自ら挨拶をできる環境を作って行きたい。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	４：学期に２～３回（年間６回）以上行った。 ３：学期に１回（年間３回）以上行った。 ２：年度間に1回以上行った。 １：実施しなかった。	3					B	2	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	４：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が回答した。 ２：６０％以上の教員が回答した。 １：６０％未満であった。	3					C	1	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	４：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が回答した。 ２：６０％以上の教員が回答した。 １：６０％未満であった。	4							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	４：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 ３：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 ２：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 １：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3					D		
		各教科・道徳・総合等において、地域の特性を生かしたり、地域人材・専門家等を招いたりした授業を行う。	４：全学年で行った。 ３：４つ以上の学年で行った。 ２：半数の学年で行った。 １：半数未満の学年で行った。	3							
プラン４　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	４：全教員で行った。 ３：８０％以上の教員で行った。 ２：６０％以上の教員で行った。 １：６０％未満であった。	4	「学校評価アンケート」にて、「学校は体力向上を目指した取り組みを展開している」の質問に、肯定的な回答をした保護者の割合。	４：９０％以上 ３：８０％以上 ２：７０％以上 １：７０％未満	4	児童アンケートでは、休み時間や放課後に自ら身体を動かす習慣がある児童が約87%いる。校庭や第2グランド・体育館を活用し、休み時間や放課後の外遊びを励行している。また、家庭での取り組みとして行っている「早寝・早起き・朝ごはん」も、家庭に協力をいただき、定着してきている。この週間だけでなく、継続してできるように、授業の中で児童へ呼び掛けを行っている。	A	5	・日本人の体格・体力は落ちているとか。 ・芝の校庭を充分活用されているのが、良いと思います。 ・芝生の広場でのびのびと安心して身体を動かすことができるので、子どもたちが楽しく、体力向上に励んでいると思います。 ・他の学校に無い芝生の校庭で思い切り身体を動かす環境に恵まれていると思います。たまには、素足で土を感じることも大事だと思います。靴との違いを感じて欲しいです。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	４：全教員で行った。 ３：８０％以上の教員で行った。 ２：６０％以上の教員で行った。 １：６０％未満であった。	4					B	1	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	４：全教員で行った。 ３：８０％以上の教員で行った。 ２：６０％以上の教員で行った。 １：６０％未満であった。	4					C	1	
		体力テストの結果分析を、授業等に生かす。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が回答した。 ２：６０％以上の教員が回答した。 １：６０％未満であった。	3					D		
プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が回答した。 ２：６０％以上の教員が回答した。 １：６０％未満であった。	4	「学校評価アンケート」にて、「学校は積極的に授業改善に取り組んでいる」・「教材教具を工夫して理解力が高まるように努めている」の質問に、肯定的な回答をした保護者の割合。	４：共に９０％以上 ３：共に８０％以上 ２：共に７０％以上 １：どちらかが７０％	3	保護者アンケートでは、「授業改善に取り組んでいる・理解力が高まるように工夫している」において、88%が肯定的な回答をしている。 児童の資質・能力の育成と教師の指導力向上に向けて、提案授業参観1回、研究授業4回を実施している。校内研究としてICT機器を効果的に活用した授業の行い方を取り上げるとともに、月1～2回の15分間のミニ研修会で活用の仕方についての実践事例を共有した。 また、指導教諭の模範授業や研究発表を参観した教員が研修内容をレポートにまとめ、会議等で報告し共有している。さらに、一人一実践を共有ドライブに蓄積する取組も行っている。今後も、校内研究を充実させ、教員の指導力向上を図る。	A	3	・英語学習の環境はどのようになっているか。語学ができるだけで、道が開ける例もある。 ・授業の質を高めるため、色々な取組がなされているのがよく分かりました。 ・教育環境：もっと高く評価しても良いと思います。ICT機器を十分活用して、子どもたちが取っつきやすい、とても分かりやすい授業を行っていると思います。よく考え込まれていて、しっかり作られた授業だといつも感じています。先日、作品発表会を見学しましたが、同じ材料でこんなに違う物ができるのかというくらい、個性に満ちたとても生き生きした発表会でした。先生の個性を引き出す力が、とても優れているのだと思います。 ・先生方の教育方針・取組が展覧会の作品に十分表れていると感じました。素晴らしい感性・明るい絵・色使い等で！！ICT機器を活用したり、研修会等を重ね、日々の先生方の御協力に感謝です。 ・コロナ禍からICTを使った授業が始まり、自宅でも自主的に自己紹介のスライドを作っている。小学生からPCの扱いが当たり前のような環境が、この子たちの広い知恵や知識に繋がっていくと思う。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	４：学期に２～３回（年間６回）以上行った。 ３：学期に１回（年間３回）以上行った。 ２：年度間に1回以上行った。 １：実施しなかった。	4					B	3	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が回答した。 ２：６０％以上の教員が回答した。 １：６０％未満であった。	4					C	1	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	４：月1回以上行った。 ３：学期に2～3回行った。 ２：学期1回以上行った。 １：実施しなかった。	4							
		校内研究「すすんで関わり合いながら学習に取り組む子の育成」に取り組み、指導力と児童の学習環境の向上を図る。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が回答した。 ２：６０％以上の教員が回答した。 １：６０％未満であった。	4					D		
プラン６　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4	「学校評価アンケート」にて、「学校は地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」の質問に、肯定的な回答をした保護者の割合。	４：９０％以上 ３：８０％以上 ２：７０％以上 １：７０％未満	4	保護者アンケートでは、肯定的な回答が92．1%であった。学校での活動情報を、ホームページで発信した。今年度は、学級限定ページも作り、保護者には公開している。今後も、活動の様子を発信していく。 コロナ禍であったり地域人材の情報が少なかったりして、授業やわくわくサマースクールなどへ地域の方々を招聘できなかったため、今後は学校支援地域本部と連携を深め、地域人材を発掘していき、地域の方々との交流を深め、児童の地域を大切にする心を育む。 各町会や保護者の方々に協力をいただいたり、掃除の時間を利用したりして行った芝刈りでは、児童の芝の校庭を大切にする気持ちが深まった。また、地域の方々との交流も深めることができた。PTAイベントへの児童の参加率も高	A	5	・地域社会との関わりは、祭り・商店街事業・町会の子供イベント･餅つき･ピクニック等色々ありますが、現在はコロナ禍のため何もできていません。 ・学校公開など、定期的に行っていただき、学校の様子が分かり身近に感じられます。地域でも協力できることを考えたいと思います。 ・コロナで地域の団体が活動できていないので、終息したら一緒に活動できたらいいと思います。それでも、地域と一緒に芝刈りをしたり、PTAの方々も色々とイベントを企画して、家庭・地域とのコワークがよくできていると思います。 ・サマースクールに協力でき、楽しい時間を過ごせました。PTA活動も活発で、芝刈りも地域との交流ができるよい機会です。若い年代の方々が町会を理解し、会員となり参画して、自分の子どもたちのために協力を願いたい。 ・芝刈りを通して、町会の方と児童・先生方・PTAと交流できたよい1年だった。今後も、地域で子どもたちを育てていきたい。そのために、ホームページの存在を保護者や地域の方にアピールする必要がある。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	４：毎回情報を提供した。 ３：おおむね情報を提供した。 ２：あまり情報を提供しなかった。 １：情報を提供しなかった。	4					B	1	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	４：学期に2～3回行った。 3:学期１回以上行った ２：年１回以上行った。 １：実施しなかった。	3					C	1	
		PTAや地域とともに行う活動に、年間１回以上参加した。（芝刈り・PTA主催イベント等）	４：全教員で参加した。 ３：８０％以上の教員が参加した。 ２：７０％以上の教員が参加した。 １：７０％未満の教員が参加した。	4					D		

○「成果評価」は、各校が４段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価はおおむね適切である　Ｃ：自己評価は適切ではない　Ｄ：評価は不可能である　の４点について、 評価した人数を